

令和3年2月8日

東金市長 鹿 間 陸 郎 様

東金市都市計画審議会
会長 倉 林 眞 砂 斗

東金市第2次都市計画マスタープランについて（答申）

令和2年1月27日付け東都都第128号により諮問のありました、標記の件について、下記のとおり答申します。

記

東金市第2次都市計画マスタープランの策定にあたり、作業の進捗に応じ慎重な審議を重ねた結果、2040年を目標とする東金市の都市計画に関する基本的な方針として妥当なものと判断します。

今後は、市民への積極的な周知と相互理解・協力により、都市づくりが確実に実践されるとともに、本マスタープランに示された方針に沿って、実現可能なものから着実に都市づくりが推進されることを希望します。

なお、当該マスタープランに基づき、都市づくりを進めるにあたっては、別紙のとおり付帯意見を申し添えます。

付帯意見

(1) 均衡の取れた都市発展への対応

都市づくりの理念と目標の実現に向けては、市域全体の均衡ある発展が重要である。本計画で示された3つの地域がそれぞれの特色を持つことは、本市の魅力でもあり、これまで受け継がれてきた歴史・文化を尊重し、自然環境との調和を図った上で、地域の特色を活かした市街地の活性化や本市の主要産業である一次産業を支える里山・田園地域の活力増進に向けた、計画的な土地利用による都市づくりに取り組むこと。

(2) 持続可能な都市づくりへの対応

人口減少、高齢化社会に即応したコンパクトな都市形成は、これからの都市づくりの重要な視点の一つである。持続可能な都市づくりの実現に向け、市街地と里山・田園地域の「結びつき」や「つながり」を意識し、暮らしやすい都市となるよう総合的な都市づくりに取り組むこと。

(3) 災害に強い都市づくりへの対応

都市防災の観点からは、あらゆる分野において災害に備えた都市づくりが重要である。地域防災計画に沿った防災・減災対策を進め、幅広い分野でのバックアップ体制の強化による安全・安心な都市づくりに取り組むこと。

(4) 技術革新への対応

次代の技術革新はめざましく、新たな価値を創造する可能性を秘めている。都市づくりにおいても、情報通信技術や人工知能など最先端技術の発展にも注視し、市民生活の利便性の向上に向けて、効果的・効率的な新技術の導入を意識して都市づくりに取り組むこと。

(5) 広域的課題への対応

今後の都市づくりの推進にあたっては、広域的な観点からの行政間の連携が重要である。地域振興、観光、防災等の広域的な課題に対して国・県、周辺自治体との緊密な連携により取り組むこと。

(6) 推進体制への対応

都市づくりは幅広い行政分野に関係するため、行政内部における横断的な連携を図りながら、市民・事業者とともに進める「官民連携」による都市づくりに取り組むこと。

(7) 適切な進行管理への対応

中長期的な視点からの計画推進にあたっては進行管理が重要である。総合計画や都市計画区域の整備、開発及び保全の方針等と連動した適切なPDCAサイクルにより実効性のある進行管理に取り組むこと。